

R6 年度 小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 太陽福祉会	代表者	鹿野 勇	法人・事業所の 特徴	ご利用者の笑顔を大切に楽しみや役割、生きがいを支援できるよう日々努めています。通いを中心に訪問、宿泊のサービスを調整し、個々にあった柔軟なサービス提供に努めています。また、「私らしく」を合言葉にゆったりとした流れの中でスタッフが関わりをもち、事業所でも自宅でも一人ひとりの生活、時間を大切にこれまでの暮らしが継続できるよう支援しています。運営推進会議を活用しながら、地域の一員として地域行事やイベントに参加し、地域の活性化活動・地域貢献活動の取り組みを行っています。
事業所名	小規模多機能型 居宅介護施設 川上ふれあいの家	管理者	木内 裕子		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1 人	人	2 人	人	1 人	人	人	2 人	人	6 人

項 目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	① 日常生活支援において、ご利用者の以前の暮らしを把握するためにも、家族会を開きご家族よりお話を伺う機会を設ける ② ご利用者への統一した生活支援、サービス提供のために、職員間の申し送り後の再確認を怠らない	① 7 月に家族会を開き、家族同士で交流する機会を設けた。運営推進会議も同日に開始することで出席者にも事業所の様子やご家族の悩みを知っていただく機会となった。 ② 毎日のミーティングにて実施後の評価や再検討を実施した（PDCA の実施）	・日々忙しい中、事業所のよりよい運営のため自己評価をしていただき、ありがたい。職員の方の負担にならないように進めて欲しい。家族にとっては、本当に安心できる。 ・一人ひとりの尊厳を守るため、努力されていることがよく分かった。	期初に全職員へ R6 年度外部評価の結果を周知し、R7 年度に取り組む重点項目について把握する。サービス評価は年に 1 回の実施であるが、適切な自己評価が実施できるよう、月に一度振り返る機会を設ける（部署の勉強会と連動させる）。
B. 事業所のしつらえ・環境	① ご家族や地域の方が気軽に事業所に来ていただける、入りやすいと思っていただけるよう、園庭や施設の環境整備に取り組む ② 日中に門、玄関などに鍵をかけることはなく、ご利用者、ご家族、地域の方が気軽に出入りできる施設環境であることを周知し地域交流に繋げていく	① 定期的に園庭の草刈り、落ち葉拾いを行い環境整備に努めた。畑や花壇はご利用者と一緒に野菜や花苗を植え、生育～収穫までを協働した。事業所内の整理整頓（5S 活動）に取り組んだ。 ② 日中は門や玄関等に鍵はかけず、外へ出たい方には職員が同行している。地域の方に声をかけて頂くことも多い。	・花壇や畑での野菜の生育～収穫は暑い中での作業で大変だと思うが、ホッとする空間でもあり、ありがたかった。もとは保育園でもあったので、地域の者にとってはそのイメージが強く、あたたかさを感じた。 ・地域にとってはなじみの場所であり、園庭も広く、面会時など駐車場所に困らないのもありがたい。	下記の環境整備を行う。 ① 事業所ウッドデッキの修繕 ② 園庭、中庭の樹木の剪定 ③ 定期的な園庭の草刈り、溝掃除 ④ 四季を通じた花壇づくり ⑤ 年間計画に基づいた菜園活動 ※可能な限り、ご利用者と協働作業をする
C. 事業所と地域のかかわり	① 川上自治振興会や広報誌を通じて、認知症あんしんサポート相談窓口の周知に引き続き	① 自治振興会便りや広報誌を通じて相談窓口の周知をすると共に、SNS や法人ホームページ	・介護保険の相談の中で事業所名（川上ふれあいの家）が出ており、地域の方に知られてい	地域で開催している「ふれあい朝市」を協働開催する（川上ふ

	取り組み、地域の方々に気軽に相談していただけるように努める ② 広報誌に施設内での取り組みをわかりやすく掲載し、併せて職員紹介も行う	ジを通して事業所の紹介や日々の活動を発信した。 ② 川上ふれあい便りを作成し、配布・公開した。久美浜病院掲示板にも貼りだしている。事業所の周知に役立っている	と思う。一方で通い以外の機能（訪問・宿泊）は地域の方に知って頂きにくい部分だと思う。今後も周知を続けて欲しい。 ・広報誌（川上ふれあいの家便り）は事業所の活動がよく分かり、ご利用者の生き生きとした様子が伝わる。	れあいの家の園庭を利用し、ご利用者、ご家族、職員が参加）。地域の活動（公民館の清掃。ゴミ拾い等）へ参加する。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取り組み	① コロナ禍で参加できていなかった地域行事（朝市や夏祭り等）への参加を感染予防対策を講じながら徐々に再開させる ② 地域行事を事業所内で行っていただく内容は、運営推進会議にて地域の方と一緒に検討する	① ドライブや事業所園庭での活動を行った。法人母体である海山園敬老祭りへの参加、ふれあい朝市や久美浜町内のカフェへの外出を行った。 ② セタ行事に家族や地域の方を招いた。地域の方と一緒に餅つきを行った。	・民生委員としても、地域におられる心配な方の把握が十分ではない。 ・ドライブやカフェへの外出は、家族にとっても嬉しい内容である。今後も続けて欲しい。	事業所には、ご利用者と地域をつなぐ役割があることを常に意識し、在宅生活を支える一つとして地域資源を活用する。これまで地域でどのように暮らしてこられたか、現在どのような繋がりがあるか、支援を通じて理解する。
E. 運営推進会議を活かした取り組み	① コロナ禍で開催を中止していた家族会を再開させ、ご家族同士が介護に対する意見や悩みを共有できる機会を設ける	① 7月に家族会を開催した。午後に運営推進会議を設け、出席メンバー及びご家族で、介護に対する意見や悩みを共有した。	・家族会に参加したことで事業所内の雰囲気やご家族の思い等、通常の運営推進会議では分からない部分も知ることができて良かった。	家族会の日にあわせて運営推進会議を開催し、出席者とご家族の情報共有、意見交換を行う。事業所管理者やケアマネジャー以外の職員も参加する。
F. 事業所の防災・災害対策	① 運営推進会議開催に併せて、地域の方に防災訓練に参加していただけるよう取り組む ② BCP(事業継続計画)に基づき、地域の防災（避難）拠点の一つとしての役割を担えるように努める	① 運営推進会議にて、事業所のある地域のハザードマップを確認し、避難場所や経路について机上の訓練を行った。事業所の備蓄品について共有した。 ② BCP（事業継続計画）については説明のみ行った。今年度、職員へ計画の周知及び訓練を実施している。消防訓練は年2回（9月、3月）に実施した。昼間、夜間を想定して消防署職員立ち合いの元、実施している。	・運営推進会議の中で、ハザードマップを使用しての確認や備蓄等についても伺い、事業所内での取り組みが分かった。防災訓練と運営推進会議の日をあわせる等、会議参加者も事業所の防災訓練を知る機会があればと思う。 ・備蓄食や防災グッズなど、事業所として準備があり、避難訓練や災害時の研修・訓練など実施されていることが分かり、家族として安心できる。	運営推進会議の日に災害訓練を計画し、事業所で実施している訓練の内容や職員の動きについて周知を図る（ご家族にも参加を促す）。

